

06/8/9

# 文化

## シュヴァルツコップさんを悼む

### 聴衆の人生変えた「女王」

畑中良輔  
(音楽評論家)

リート(歌曲)を聴く前  
と聴いた後では、その人の

人生は変わっていないか  
なりません。そう言い

の可能性を音楽の中に刻み  
込んだ声楽家である。  
彼女は「女王」としか言

切った20世紀最高のソプラ  
ノ、エリーザベト・シュヴ  
アルツコップが3日、この  
世を去った。

彼女は「女王」としか言  
いようのない優雅さ、申し  
難い品性をもっていた。R  
・シュトラウスの「ばらの

マリア・カラス、ビルギ  
ット・ニルソンと、20世紀  
を代表する大歌手の逝去に  
次いで90歳の天寿を全うし  
たシュヴァルツコップは、

騎士」の元帥夫人をはじめ  
め、「フィガロの結婚」や  
「カプリッチョ」で彼女は  
ど典雅に演じるソプラノは  
もう出ないだろう。

オペラとリートの両方にあ  
って、「言葉」の持つ無限

初来日の計画が伝えられ  
た64年から4年後の68年4

70年の来日公演で竹原伸治氏撮影



月、やっと彼女は日本を訪  
れた。その時のプログラム  
の中に「ヴォルフ歌曲の  
夕」があった。当時の日本  
ではまだヴォルフは一般的  
でなかったため、日本側は  
難色を示したが、彼女は譲  
らず決行した。

れ、「ミニヨン」の「君よ  
知るや」のすさまじいまで  
の情熱の燃焼に、ともに燃  
え上がった。  
最後の曲が終わるやいな  
や、3階、4階の人たちも  
駆け降り、ステージ前にみ  
んなが押し寄せた。リート

超満員の聴衆はヴォルフ  
の变幻自在な歌曲に酔いし

聴衆が熱狂したことはかつ

てなかった。まさしく「人  
生が変わる」という意味  
を、彼女は私たちに教えて  
くれたのである。

そんな複雑な状況下にあ  
って彼女は、全人格をもつ  
て楽曲に向き合い、楽譜を  
深く正確に読むことで再出  
発し、音楽界に新しい時代  
を切り開いたのである。

シュヴァルツコップはバ  
リトンのフィッツシャーデー  
リースカウトともに第2次  
大戦以降の歌唱様式をつく  
りあげ、閉鎖的と言われた  
ドイツ歌曲にオペラ以上の  
注目を向けさせた人でもあ  
った。第1次大戦直後、人  
々の恐怖と生への渴望を映  
すかのような爛熟した歌唱  
様式が数々の「大歌手」を  
生み、その一方で、ファシ  
ズムへの反動から、あふれ  
る感情を知性でコントロー  
ルする思索的な歌い手たち  
も現れた。

68年以来、ほぼ2年おき  
くらいに来日するようにな  
った彼女は、来るほどに日  
本が好きになった。「こん  
なにデリケートに私の歌を  
聴き、理解してくれる国は  
他にありません」と語った  
くらいである。日本での最  
後のコンサートでは、元帥  
夫人のモノローグをほの暗  
いステージで演じてくれ  
た。ありがとう、そしてさ  
ようなら、女王シュヴァル  
ツコップ!